［成果情報名］早生温州ミカン「田口早生」「小原紅早生」の果実特性

［要約］「田口早生」は、早熟性で、外観もよく、樹上に11月下旬まで成らせると糖度が高くなる傾向である。「小原紅早生」は、果形がやや扁球形で、果皮が濃橙色で、糖度も高い傾向である。

［キーワード］「田口早生」、「小原紅早生」成熟期、果形、糖度、果皮色

［担当］長崎果樹試・常緑果樹科

［連絡先］電話0957-55-8740、電子メール takami@pref.nagasaki.lg.jp

［区分］果樹

［分類］指導

［背景・ねらい］

県内および県外の温州ミカンの有望系統について、本県への適応性を検討し、早生系としては、外観が優れ高糖度で早熟性または完熟栽培に適する系統を選抜する。

新系統の来歴

系　統　名	来　　歴
田口早生	興津早生枝変わり（和歌山県）
小原紅早生	宮川早生の枝変わり（香川県）

［成果の内容・特徴］

1．「田口早生」は、果形がやや扁平で、果面が滑らかである。成熟期は11月上旬である。「原口早生」に比べ、糖度が高く、減酸が早い傾向である。樹上に11月25日以降まで成らせると糖度が0.5程度高くなる（表1、2）。

2．「小原紅早生」は、果形がやや扁球形で、果面は滑らかである。成熟期は11月上旬である。「原口早生」に比べ、糖度がやや高い傾向で、果皮が著しく濃橙色である（表1、2）。

［成果の活用面・留意点］

1．「田口早生」は、樹上に11月25日以降まで成らせると「原口早生」と同等の浮き皮果の発生がみられる。

2．「小原紅早生」は、果皮が濃橙色であるが、樹上に長く成らせると陽光面は退色しやすい。

［具体的データ］

表１　11月10～12日の果実特性　（2001～2003年）

品　種	1果平均重 (g)	果形指数	糖　度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	糖酸比	果皮色[z]	果皮粗滑 (1.2.3)	浮き皮[y]
田口早生	127.4	128.8	11.0	0.75	15.2	8.1b	1.0	0.0
小原紅早生	122.8	124.7	11.3	0.85	13.9	11.0a	1.1	8.9
原口早生	130.2	131.2	10.8	0.82	13.3	8.6b	1.3	15.6
有意性	NS	NS	NS	NS	NS	＊	NS	－

[z] カラーチャート

[y] 発生度＝Σ（指数×発生果数）／（3×調査果数）×100

縦の異なる文字間に最小有意差法で5%レベルの有意差有り

表2　11月25～28日の果実特性　（2001～2003年）

品　種	1果平均重 (g)	果形指数	糖　度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	糖酸比	果皮色[z]	果皮粗滑 (1.2.3)	浮き皮[y]
田口早生	120.2	128.5	11.5	0.73	16.5	9.1b	1.0	15.3
小原紅早生	128.8	130.2	11.5	0.82	14.6	12.6a	1.0	8.9
原口早生	134.2	134.3	10.9	0.87	13.0	8.7b	1.1	17.6
有意性	NS	NS	NS	NS	NS	＊	NS	－

[z] カラーチャート

[y] 発生度＝Σ（指数×発生果数）／（3×調査果数）×100

縦の異なる文字間に最小有意差法で5%レベルの有意差有り

［その他］

研究課題名：温州ミカンの新品種の適応性

予 算 区 分 ：県単

研 究 期 間 ：平成15年度（昭49～）

研究担当者：高見寿隆、山下義昭

発表論文等：なし